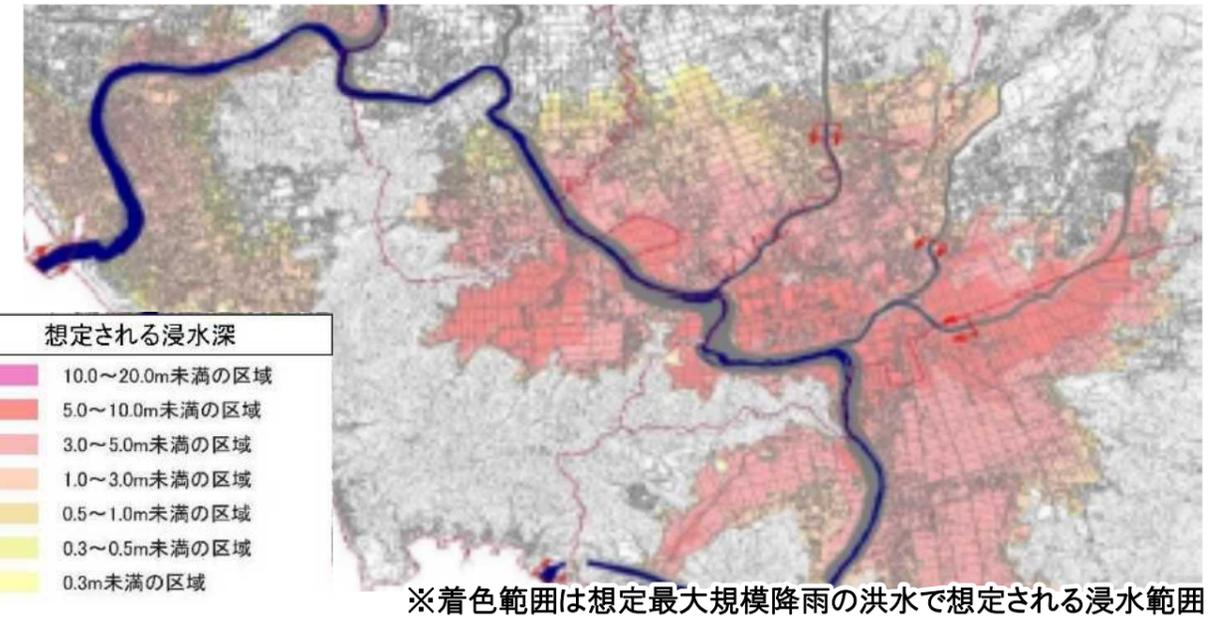


水害リスクマップの公表について

多段階の浸水想定図
水害リスクマップ(暫定版)
について

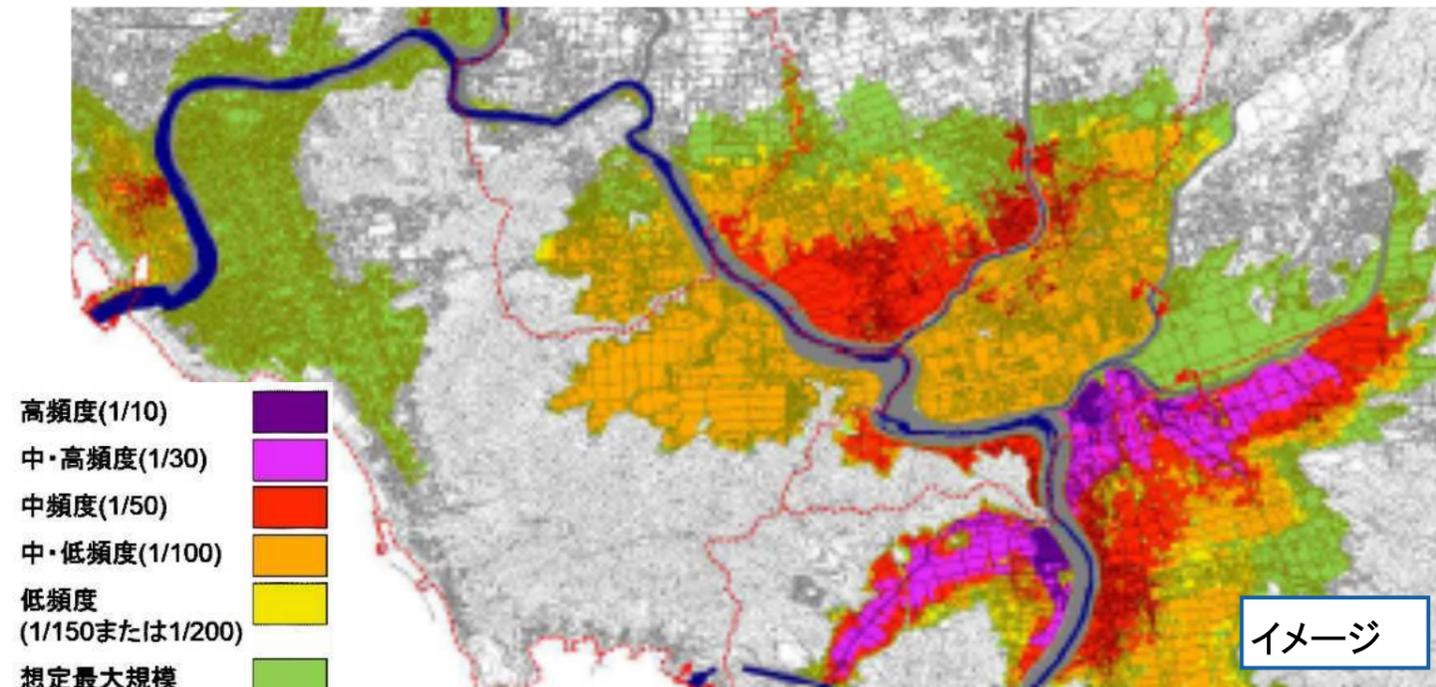
- 国土交通省は、大雨による浸水の発生可能性を色分けした **水害リスクマップ** を整備しています。
- これまでは想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した **水害ハザードマップ** を提供してきました。
- 今後、これまでの想定最大規模に加えて、より頻度の高い降雨による浸水範囲を、頻度毎に示した **水害リスクマップ** を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図ります。

水害ハザードマップ(従来)



水害リスクマップ作成イメージ・活用例(目的)

- 現在の浸水想定区域図に加えて、より頻度の高い複数降雨による浸水範囲を頻度毎に確認できます。



※上記凡例の()内の数値は確率規模を示していますが、これは例示です。

まちづくり

- 都市計画、立地適正化計画等での活用、住まい方の工夫
 - 地域ごとの水害リスク評価
 - 防災まちづくりの方向性の検討

治水対策

- 流域対策も含めた事業効果の見える化
 - より高頻度の浸水想定
 - 河川整備前後の浸水想定

避難行動

- タイムラインの作成
 - 浸水頻度を踏まえた避難路等の設定
 - 新たなハザードマップの情報

水害リスクマップの整備スケジュール

今回公表

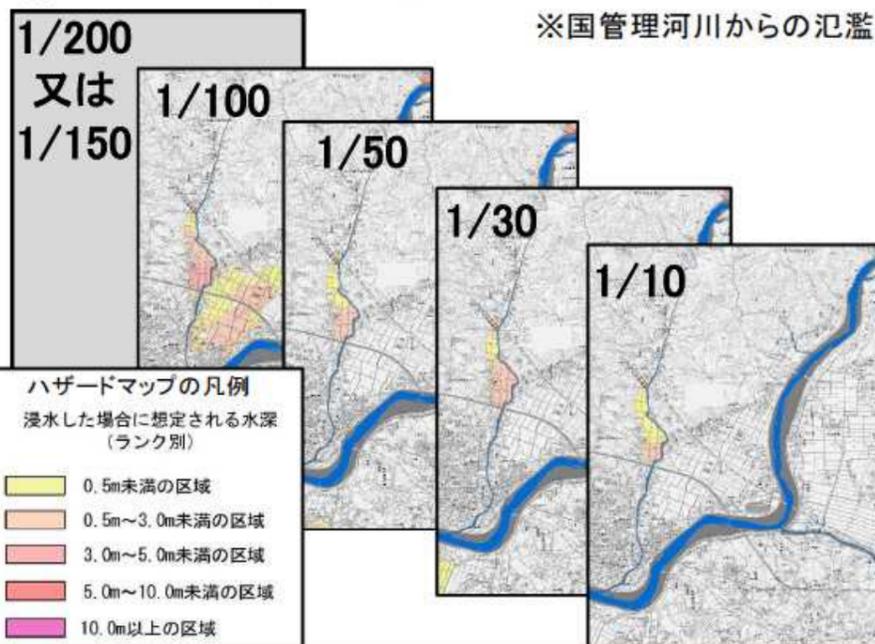
○想定最大規模よりも頻度の高い降雨による浸水範囲と浸水深を示した「多段階^{*}の浸水想定図」を整備するとともに、浸水頻度ごとの浸水範囲を示した「水害リスクマップ」の整備を進め、防災・減災のための土地利用等を促進。

※降雨確率規模：1/10、1/30、1/50、1/100、1/150又は1/200

令和4年度上半期までに公表

①多段階の浸水想定図(外水氾濫^{*})

※国管理河川からの氾濫

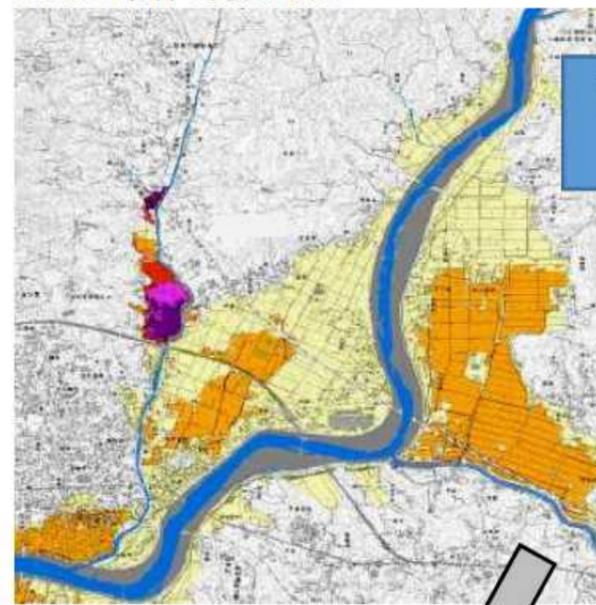


重ね合わせ

令和4年度末までに公表

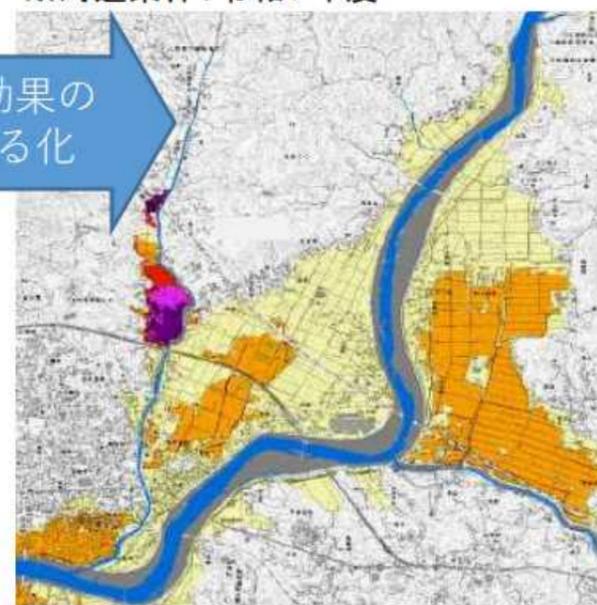
②外水氾濫の水害リスクマップ

※河道条件：現況河道



②' 外水氾濫の水害リスクマップ

※河道条件：令和7年度

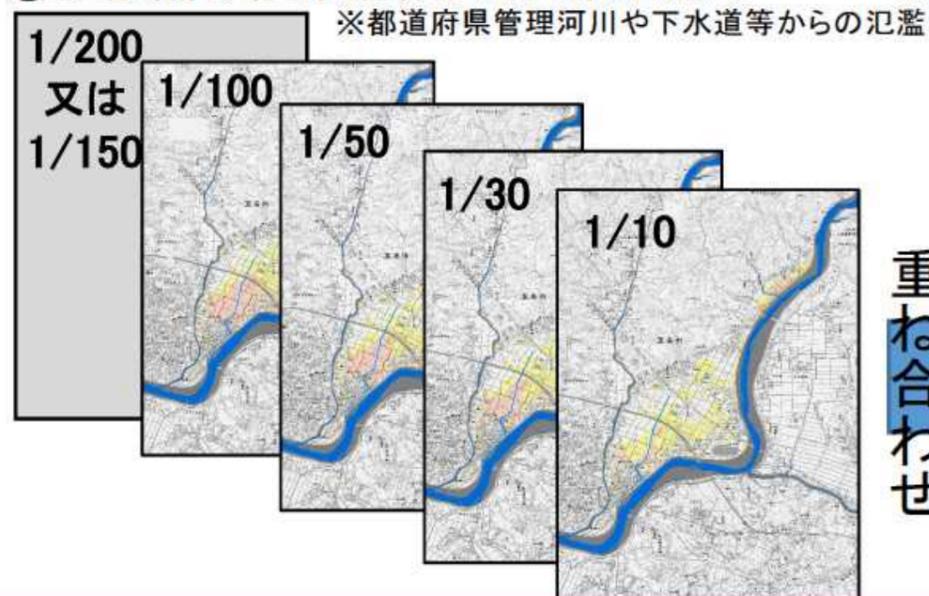


整備効果の
見える化

令和7年度までに公表

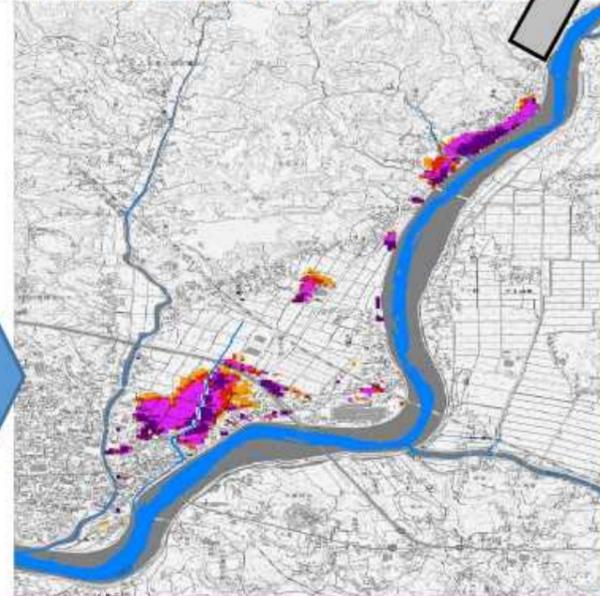
③多段階の浸水想定図(内水氾濫^{*})

※都道府県管理河川や下水道等からの氾濫

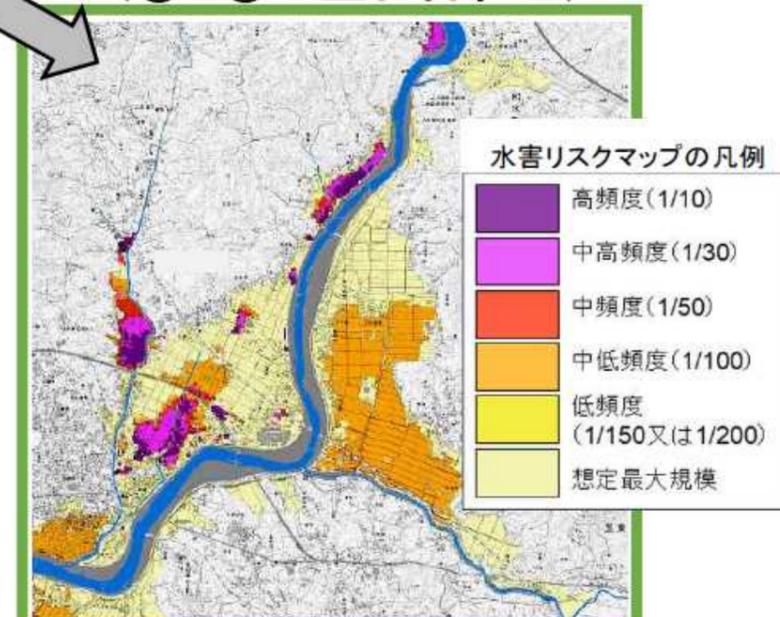


重ね合わせ

④内水氾濫の水害リスクマップ



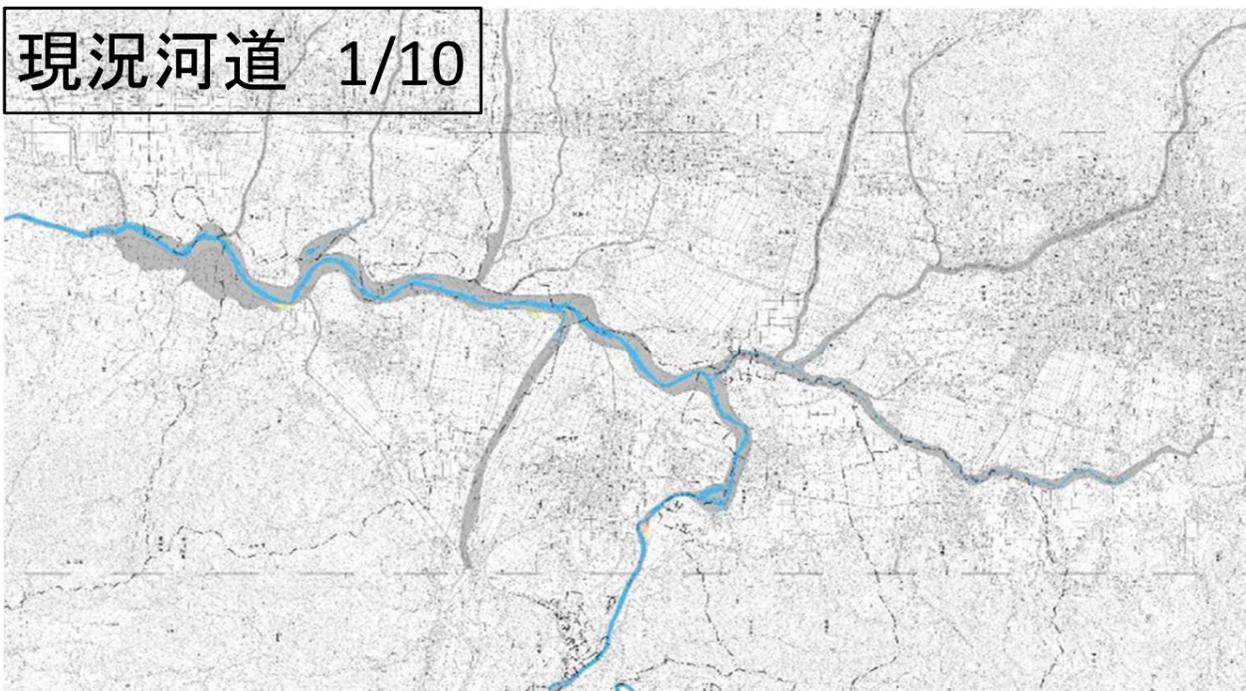
⑤内外水統合の水害リスクマップ (②と④の重ね合わせ)



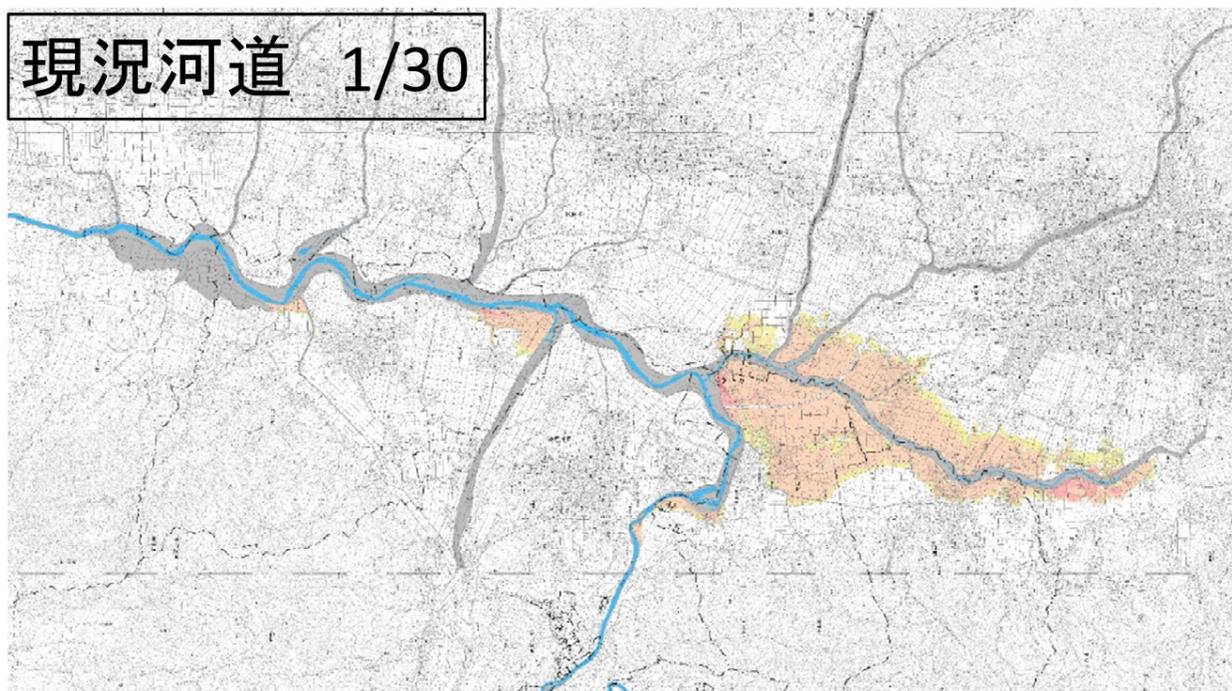
多段階浸水想定図の例

確率規模別の浸水状況(浸水深)を提示

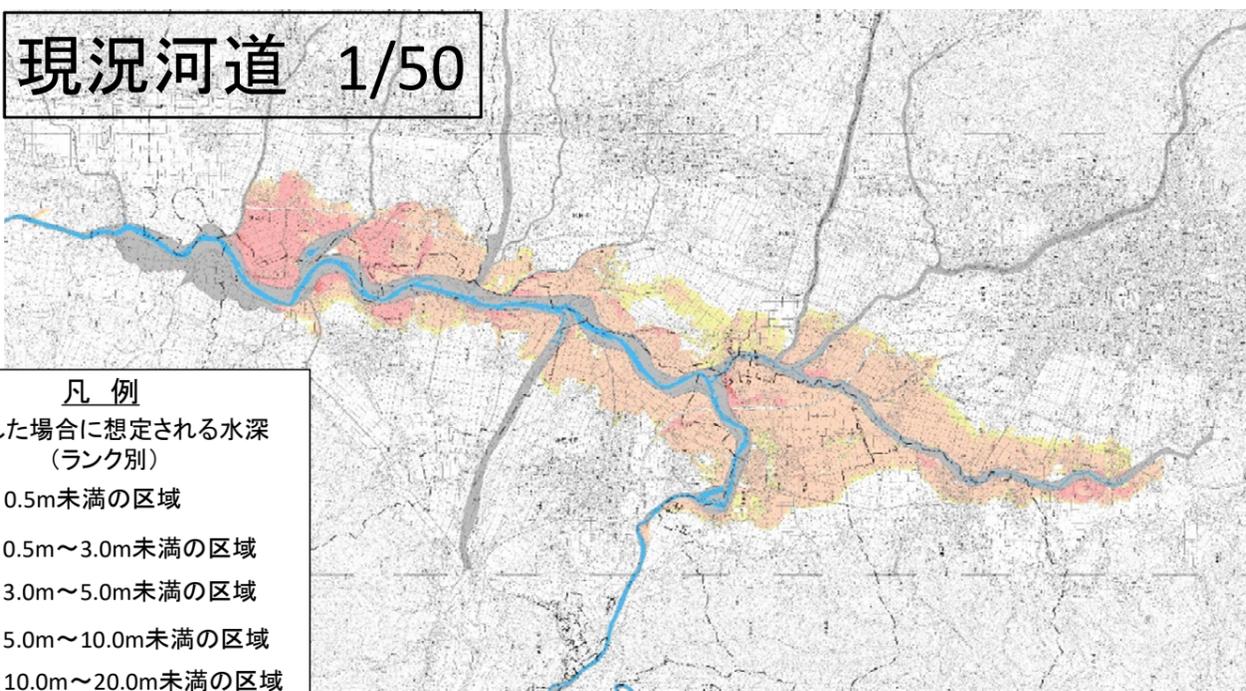
現況河道 1/10



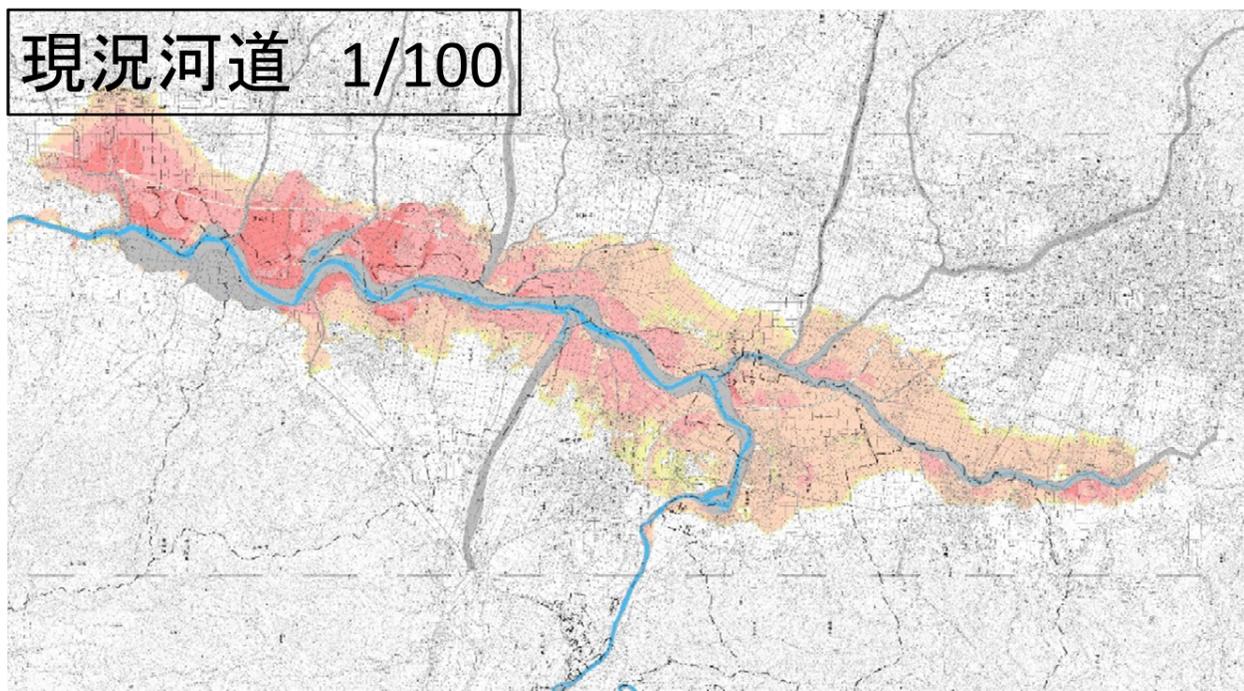
現況河道 1/30



現況河道 1/50



現況河道 1/100



凡例

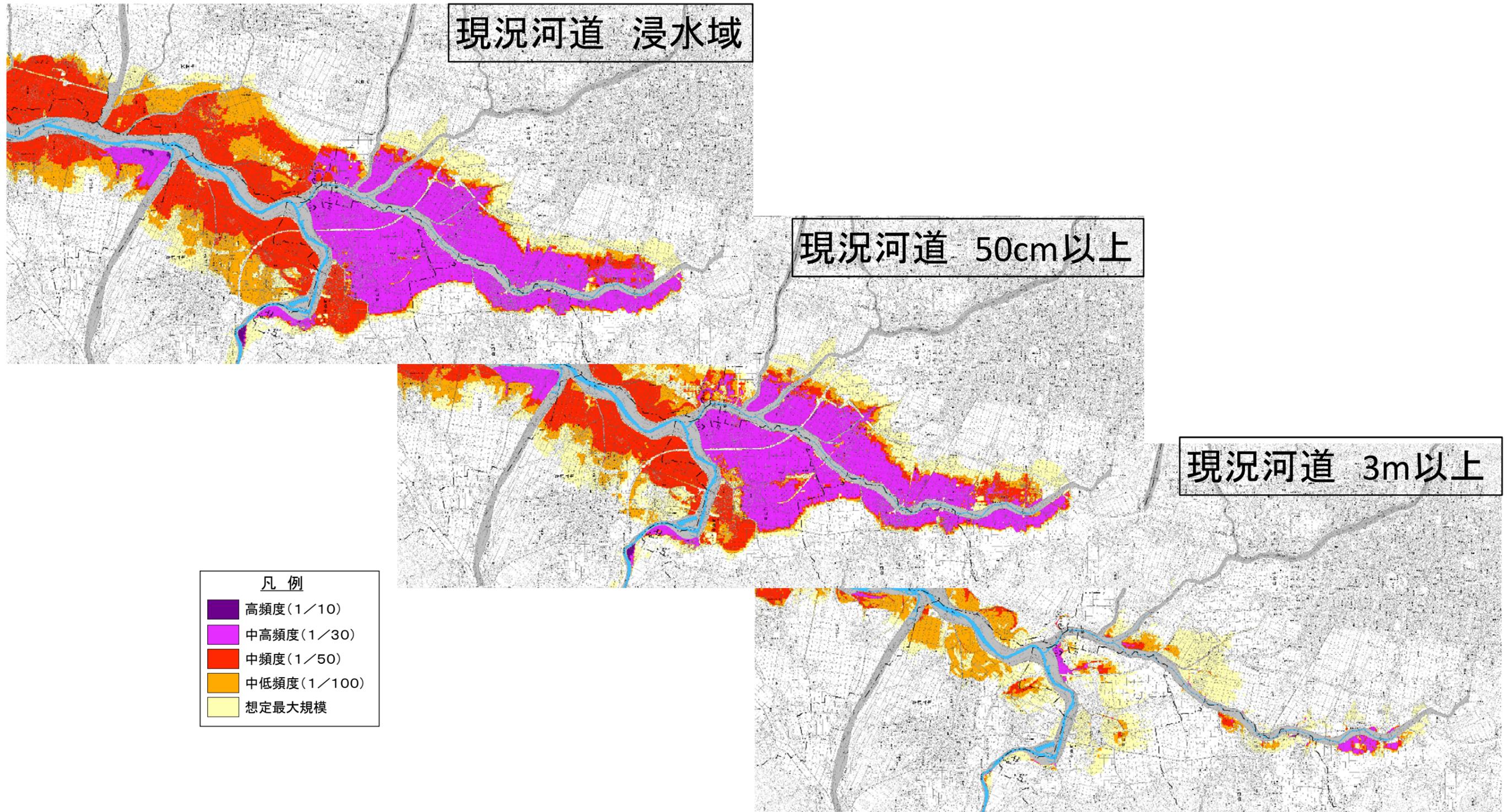
浸水した場合に想定される水深
(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5m~3.0m未満の区域
- 3.0m~5.0m未満の区域
- 5.0m~10.0m未満の区域
- 10.0m~20.0m未満の区域
- 20.0m以上の区域

上記と同様に河道整備段階別の浸水状況も提示

水害リスクマップの例

浸水域の発生頻度(確率規模)を浸水深別(浸水域すべて、0.5m以上、3m以上)を提示



上記と同様に河道整備段階別の浸水状況も提示

今回作成する図面（多段階の浸水想定図）

【多段階の浸水想定図】

整備段階	1／10 (高頻度)	1／30 (中高頻度)	1／50 (中頻度)	1／100 (中低頻度)
現況河道 (R3末河道)	●	●	●	●
短期河道 (R7末河道)	●	●	●	●
中期河道 (R11末河道)	●	●	●	●
中長期河道 (R13末河道)	●	●	●	●

今回作成する図面(水害リスクマップ)

【水害リスクマップ(暫定版)】

整備段階	水害リスクマップにおける浸水深別		
	浸水が発生する範囲	浸水深50cm以上の範囲	浸水深3m以上の範囲
現況河道 (R3末河道)	●	●	●
短期河道 (R7末河道)	●	●	●
中期河道 (R11末河道)	●	●	●
中長期河道 (R13末河道)	●	●	●